



大門中だより

<http://www.higashikurume-school02.jp/~dai-j/>

令和6年10月10日発行

(学力調査分析号)

東久留米市立大門中学校

〒203-0011 東久留米市大門町2-13-8

TEL: 042-474-1753 Fax: 042-472-7997

令和6年度 全国学力・学習状況調査 調査結果について

校長 梶原 孝恒

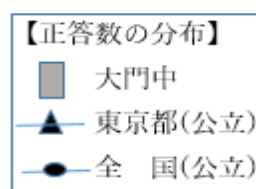
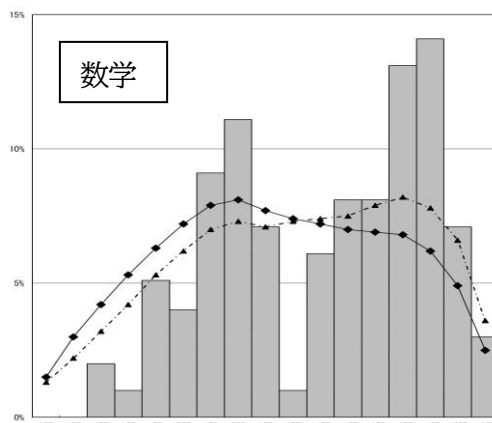
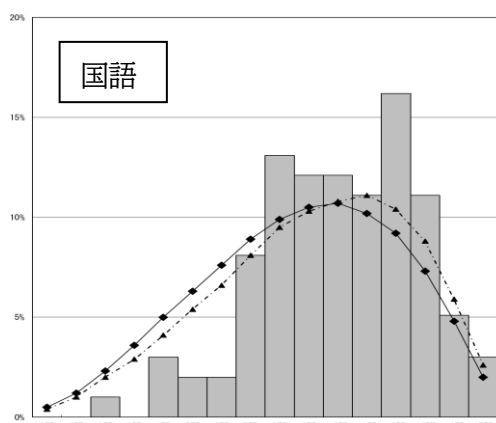
令和6年4月に第3学年を対象として全国学力・学習状況調査が行われました。この度、本年度の調査結果を分析し課題改善に向けた本校の取組をまとめましたので、ご報告いたします。本市全体の傾向につきましては本市のHPからもご覧いただけますので、あわせてご覧ください。

また、国語・社会・数学・理科・英語の5教科につきましては学年毎に授業改善推進プランを作成いたしました。近日中に学校ホームページにて公開いたしますので、あわせてご覧ください。

本調査結果は、あくまでも学力・学習状況の一部です。他教科も含め、全教育活動を通して今後とも学力向上を図ってまいります。引き続きご理解、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

学力調査 正答数分布

※横軸は正答数、縦軸は割合となります。



国 語

分類		区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
				大門中	東京都(公立)	全国(公立)
全体			15	67	61	58.1
学習指導 要領の 内容	知識及び 技能	(1)言葉の特徴や使い方にに関する事項	3	68.0	61.6	59.2
		(2)情報の扱い方にに関する事項	2	67.7	62.9	59.6
		(3)我が国の言語文化に関する事項	1	84.8	75.7	75.6
	思考力、 判断力、 表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	64.6	62.9	58.8
		B 書くこと	2	79.3	67.9	65.3
		C 読むこと	4	57.1	50.8	47.9
評価の観点		知識・技能	6	70.7	64.4	62.0
		思考・判断・表現	9	64.5	58.6	55.4
		主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式		選択式	9	69.1	63.5	61.0
		短答式	3	72.1	64.6	61.8
		記述式	3	55.6	49.6	45.5

都平均と比べて、「言葉の特徴や使い方に関する事項」において6.4ポイント、「話すこと・聞くこと」において1.7ポイント上回ることができました。さらに、記述式の問題についても6.0ポイント上回ることができました。記述式問題に対するアプローチの仕方を指導し、授業で継続して問題に取り組ませたことが良い結果として表れたものと考えます。

先日文化庁が発表した令和5年度「国語に関する世論調査」の結果から、読書量が減っていると答えた割合は7割近くになったとの報道がありました。同調査では、「日常の言葉遣いや話し言葉」について関心があると答えた割合が8割ある一方、「文字の表記あるいは文章の書き方」に関心があると答えた割合は4割と低くなったことから、昨今の日本人の国語や読書に関する興味・関心の変化も活字離れの傾向を強めている可能性があるものと考えます。そのような中、本校では、朝読書を通して本に親しませる活動を継続してきていることで一定の成果につながっているものと考えております。

以上の背景を踏まえ、以下の方策により授業改善に努めるとともに、生徒の学力向上を図ってまいります。

【言葉の特徴や使い方に関する事項】

- ① 朝読書や授業における読む活動の励行により、活字に親しませる。
- ② 読み書きが分からない漢字については辞書を引くことや、学習用端末で調べさせることで、個別最適な学びを推進する。
- ③ 定期考査や小テストにおいて、漢字の読み書きを出題することで、繰り返し丁寧に学習させる。

【話すこと・聞くこと】

- ① 学期に一度を目途に、意図的・計画的にディスカッションなどの話し合い活動を取り入れる。
- ② 学習用端末で話し合いの様子を撮影した動画を鑑賞することで、効果的な受け答えや質問の仕方について学習させる。

【記述式問題】

- ① 記述式問題へのアプローチを丁寧に指導し、学習者にとって深い学びになるようにする。
- ② 教科書外からも教材を取り上げることで、学習者が対話的に比較・分析をできるようにする。
- ③ 評価基準を明確にし、学習者自身が主体的に記述式問題に取り組めるようにする。

数 学

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
			大門中	東京都(公立)	全国(公立)
全体		16	63	57	52.5
学校指導要領の 領域	A 数と式	5	64.2	56.2	51.1
	B 図形	3	53.9	46.5	40.3
	C 関数	4	69.9	63.5	60.7
	D データの活用	4	63.1	59.1	55.5
評価の観点	知識・技能	11	73.8	67.3	63.1
	思考・判断・表現	5	40.6	34.2	29.3
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	5	70.1	62.4	58.5
	短答式	6	76.9	71.3	67.0
	記述式	5	40.6	34.2	29.3

正答数の中央値は11問となり、東京都（9問）や全国（8問）の平均を上回ることができました。また、学習指導要領の領域の正答率も都平均を4から8ポイント上回ることができました。

そのような中、問題毎にみると、確率の問題については正答率が74.7%となり、都平均を2.6ポイント下回りました。原因としては、コインを2枚同時に投げた時、2枚とも裏になる確率を $\frac{1}{2}$ と誤答した生徒の割合が12.1%であった（都平均7.4%）ことにあります。問題の理解不足に起因する可能性が高いことから、日常の指導から問題文の正しい把握に努めさせるとともに、樹形図を正しく書く等の基礎・基本の確実な習得を目指した指導を徹底してまいります。

問題番号	問題の概要		解答類型					
			1	2	3	4	9 9	無解答
5	2枚の10円硬貨を同時に投げるとき、2枚とも裏が出る確率を求める	大門	74.7	8.1	12.1	1.0	3.0	1.0
		東京都	77.1	7.5	7.4	1.5	3.2	3.3
		全国	73.1	7.4	9.1	2.2	4.0	4.2

1	◎	1／4 と解答しているもの （数学的に同値と判断できるものを含む。以下同様）
2		1／3 と解答しているもの
3		1／2 と解答しているもの
4		整数の値を解答しているもの
9 9		上記以外の解答
0		無解答

評価の観点においては、全国的に多くの生徒が苦手とする「思考・判断・表現」を問う記述式の問題の正答率が都平均を6.4ポイント上回ることができました。課題を明確にして計画を立て、基礎的・基本的な知識・技能を着実に習得し、それらを活用できる指導を、段階的に行った成果が一定の結果としてあらわれたものと考えます。今後も正しく問題を理解し、習得した知識を活用できるような指導を推進してまいります。

生徒質問調査

今年度の全国学力・学習状況調査では国語と数学の学力調査の他に、生活面や学習面、そして授業について答える「生徒質問調査」がありました。この生徒質問は70問近くありますが、その中から本校の特徴として項目を4問選び（問9・問14・問18・問33）分析しました。今後の方策も含めて報告いたします。

1：当てはまる	2：どちらかといえば、当てはまる
3：どちらかといえば、当てはまらない	4：当てはまらない
5：無回答	

（問9）自分には、よいところがあると思いますか。

%	1	2	3	4	5
本校	32.0	48.5	17.5	2.1	0.0
都（公立）	42.2	41.2	11.4	4.9	0.2
全国（公立）	40.4	42.9	11.8	4.7	0.2

〔分析と方策〕1（はっきりと自分にはよいところがある）と回答した生徒の割合は、都や全国の平均より10ポイント程度低く、1と2を合算した肯定的な回答をする生徒の割合で比べても3ポイント程度低い結果となりました。一方4（はっきりと自分にはよいところがあると言えない）と回答した生徒

の割合は、都や全国よりは2ポイント程度低かったですが、3（控えめながらよいところはない）と回答した生徒は都や全国より6ポイント程度高くなりました。都や全国の生徒と比べると自己肯定感が高い生徒は若干少ない傾向にあると考えられます。今後様々な教育活動を通して、生徒の個性を発見し認め、さらに伸ばす取組を充実させることで、自己肯定感を高める指導を行ってまいります。

(問14) 困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。

%	1	2	3	4	5
本校	17.5	35.1	33.0	14.4	0.0
都（公立）	29.2	37.9	21.5	10.8	0.6
全国（公立）	28.7	38.8	21.9	10.2	0.5

〔分析と方策〕1と2を合算した肯定的な回答をする生徒の割合は52.6%にとどまり、都や全国の平均よりも15ポイント程度低い結果となりました。47.4%の生徒が否定的な回答をしたこととなります。困りごとや不安は、小さなものから大きなものまで幅があり、困りごとや不安の捉え方は生徒によって様々だと考えられます。別質問で「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」については90%の生徒が肯定的な回答をしています。学校では予約制ですが相談の専門家であるスクールカウンセラーが週1回来校しています。また、学期に1回生活アンケート等を実施して、学級担任や養護教諭等、相談内容に応じて秘密は守りながら解決に向けた体制を整えております。前向きに学校生活を送ることができるよう、些細で小さな出来事であっても、不安材料との向き合い方や不安解消に向けて、安心して相談してもらえればと思います。

(問18) 友達関係に満足していますか。

%	1	2	3	4	5
本校	49.5	44.3	5.2	1.0	0.0
都（公立）	53.0	36.5	7.4	2.4	0.7
全国（公立）	55.0	35.1	7.2	2.1	0.6

〔分析と方策〕1と2を合算した肯定的な回答をする生徒の割合は93.8%となり、都や全国の平均よりも3ポイント程高くなりました。学級活動でのソーシャルスキルトレーニング（大門タイム）やハイパーQの効果的な活用により、より良い人間関係の構築を目指して教育活動を進めてまいります。

(問33) 学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。

%	1	2	3	4	5
本校	38.1	52.6	7.2	2.1	0.0
都（公立）	35.3	50.2	10.2	2.4	0.7
全国（公立）	36.4	49.7	9.8	2.4	0.6

〔分析と方策〕もっとも肯定的な1と回答した生徒の割合が、都や全国の平均よりも3ポイント程高くなりました。コミュニケーションを通して自分の考えを深めることや、友達の考え方による気づきから学ぶ生徒が多かったです。また、3と4を合わせた否定的な回答をした生徒の割合は10%を切りました。課題や質問に対してまず自分の考えを持ち、自分の言葉で言語化する習慣を身に付け、発言できる機会を大切に授業づくりを行ってまいります。

学習の進め方アンケート（本校独自）

本校では全校生徒対象に、自らの学習の進め方に関するアンケートを7月に実施いたしました。このアンケートは昨年度まで実施していた東京都「児童・生徒の学力向上を図るための調査」にあった質問を反映させたアンケートです。今年度は16項目調査しました。その中から本校の特徴として項目を8問選び分析しました。今後の方策も含めて報告いたします。

（問1）あなたが学習をする理由はどれか選んでください。（複数回答可）

	%	1年生	2年生	3年生
① 分かった楽しいから		58.1	51.6	51.0
② しっかり考えられるようになりたいから		62.8	39.1	52.1
③ 将来仕事や生活に役立つから		69.8	56.3	64.6
④ 友達や先生と学ぶことが楽しいから		25.6	25.0	30.2
⑤ 人に負けたくないから		20.9	26.6	21.9
⑥ ごほうびをもらえるから		16.3	17.2	2.1
⑦ その他		8.1	3.1	9.4
（⑦の記載事項）やればできることを自分に証明したいから など				

（問2）あなたは、学校以外の家庭や塾などで、月曜日から金曜日まで、毎日およそどのくらいの時間、学習をしていますか。

	%	1年生	2年生	3年生
① していない		2.2	14.7	6.3
② 毎日30分未満		6.7	11.8	8.3
③ 毎日30分以上1時間未満		29.2	22.1	24.9
④ 毎日1時間以上1時間30分未満		24.7	23.5	26.9
⑤ 毎日1時間30分以上2時間未満		20.2	17.6	18.6
⑥ 毎日2時間以上		16.9	10.3	15.0

〔分析と方策〕（問1）については、どの学年の生徒も③「将来の仕事や生活に役立つ」から学習すると回答した生徒の割合が高くなりました。2番目に多い理由として、2年生は①「分かった楽しい」からですが、1、3年生は②「しっかり考えられるようになりたい」からが上がっています。また、（問2）については、どの学年も「30分以上1時間未満」の生徒が20%以上おりました。家庭学習は生徒の主体性に基づくものですが、学習内容の定着や思考力を身に付けるためには、おのずと家庭学習の時間が必要になります。家庭学習の定着は、東久留米市立学校の共通課題となっています。授業や課題を通して、生徒のやる気を引き出す努力は引き続き行ってまいります。学力の定着に必要な家庭学習の推進を今後とも働きかけてまいりますので、ご家庭でもご支援の程よろしくお願いいたします。

1：どの教科も当てはまる	2：当てはまる教科が多い
3：当てはまらない教科が多い	4：どの教科も当てはまらない

（問3）難しいと感じる問題でも、最後まであきらめずに取り組もうと努力している。

%	1	2	3	4
1年生	16.9	62.9	19.1	1.1
2年生	20.6	50.0	25.0	4.4
3年生	21.9	61.5	14.6	2.1

(問4) 学習や作品づくりで、うまくいかない場合、学習や作業の方法を変えるなど、自分なりに工夫している。

%	1	2	3	4
1年生	19.3	58.0	21.6	1.1
2年生	27.9	44.1	23.5	4.4
3年生	25.0	65.6	8.3	1.0

〔分析と方策〕「主体的に学習に取り組む態度」の中で(問3)は「ねばり強く進める」態度について、(問4)は「自己調整して進める」態度についてのアンケートです。学習を自己調整できるようにするために、目標(めあて)を提示するとともに、学習のまとめ・振り返りを大切にし、次の学習へ繋げることができるよう授業改善を進めてまいります。家庭学習でのご支援もよろしくお願いします。

(問8) 自分の考えたことを、積極的に友達や先生に伝えようとしている。

%	1	2	3	4
1年生	11.2	43.8	37.1	7.9
2年生	20.6	41.2	32.4	5.9
3年生	22.1	45.3	30.5	2.1

(問9) 友達と相談して、考えを深めるようにしている。

%	1	2	3	4
1年生	21.3	57.3	16.9	4.5
2年生	33.8	47.1	16.2	2.9
3年生	47.4	42.1	9.5	1.1

〔分析と方策〕友達と相談して考えを深めるようにはしている(問9)が、積極的に自分の考えを友達や先生に伝えることには至らない(問8)傾向が見られました。学年が上がるにつれ、否定的な回答が減っていることから、成長とともに自分の考えを伝えやすくなってきているものと考えられます。今後も引き続き、授業内での話し合い活動を大切にしていきます。

(問10) どうしてそうなるのかという理由(根拠)を考えながら学習している。

%	1	2	3	4
1年生	20.5	54.5	22.7	2.3
2年生	29.9	44.8	22.4	3.0
3年生	36.2	54.3	8.5	1.1

(問15) テストなどでまちがえたときは、似たような問題を選び、特に練習している。

%	1	2	3	4
1年生	15.9	51.1	30.7	2.3
2年生	20.9	32.8	35.8	10.4
3年生	17.7	40.6	38.5	3.1

〔分析と方策〕課題解決のために理由や根拠をもとに「もし～ならば・・・だろう」といった仮説の検証をすることについては、学年は上がるにつれて、国語や数学、総合的な学習の時間などでより多く取り上げることから、3年生になると否定的な回答はかなり少なくなっております。(問10)一方で、まちがえた課題を精選して取り組む姿勢については、どの学年の生徒も否定的な回答が多く見られました。(問15)授業内における個別最適な学びの機会の充実や、水曜日の放課後補充教室などの効果的な運営・活用により、さらに支援してまいります。